○来月の人権に関する取組　５月「児童福祉週間　（５／５～５／１１）」標語：小さなて　みんなではぐくみ　育ててく

十島村教育委員会だより　令和５年４月号

さわやかトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

春４月、十島の洗礼を受け、いざ出発！何事もポジティブに！！

教育長　木戸　浩

新しい令和５年度がスタートしました。会者定離の常。別れのあとの新たな出会いがやってきました。今年はいよいよ５月８日からコロナ感染症が第５類に引き下げられ、新たな生活様式で再スタートが切れそうです。そうは言ってもコロナ感染症が無くなったわけではなく、まだまだ感染するリスクがないわけではありません。教育委員会としましては、子どもたちの安心・安全を第一に、そして教職員を含め、全村民の方々の健康を守るために、これまでどおり感染対策をしっかり行いながら、学校教育・社会教育・社会体育を充実させ、文化財等も振興しながら、今年度も頑張ってまいりたいと思います。

さて、４月３日の午後から、校長先生と教頭先生の辞令交付式と宣誓式を役場４階会議室で行いました。今年は、すべての赴任される先生方の宣誓式も実施しました。肥後村長からも激励の言葉を賜りました。その後、新規採用の５人の先生方の宣誓式も行いました。

４月３日の船で、新しく赴任される先生方や山海留学生の児童生徒が各島・学校に向かう予定でしたが、出航は荒天のため５日に延期になりました。先生方３３人、新しい山海留学生２５人がこの船でそれぞれの島に向かいました。私も一緒に乗船し、各島での赴任の様子や出迎えの様子を見守っていきました。

夜が明けきれない小雨が降る中で、口之島に到着すると、水銀灯に照らし出された岸壁の前で、出迎え式を行ってくれました。６人の先生たちと留学生５人が降り立ちました。ようやく明るくなり始めた中之島では、法被をまとい、和太鼓演奏をする準備をしていましたが、あいにくの雨でした。５人の先生の出迎えのために、全校児童と多くの島民の方々が待合所に集まり、元気よく出迎えていただきました。諏訪之瀬島では、御岳は雲に隠れて見えませんでしたが、１人の先生と留学生６人を大きな横断幕を広げて出迎えてくれました。平島では、横断幕と名前を記入したプラカードを掲げ、５人の先生方と留学生２人を島民の方々が歓迎してくださいました。悪石島では、岸壁のボゼの壁画の前で、法被姿の子どもたちがよさこいソーランを踊る予定でいたようですが、雨が激しくなり待合所での歓迎式となりました。小宝島は波浪が激しく抜港となってしまいました。翌日の上り便で到着し、６人の先生方と９人の留学生が無事に到着できました。宝島では、リニューアルした新たな壁画が目の前に飛び込んできて、赴任される先生方もびっくりされていました。船が到着する前から雨も上がり、スチールパンの演奏での歓迎でした。待合室前に横断幕を掲げ、残っていた児童・生徒と教職員、住民の方々が３人の先生方を出迎えてくださいました。

それぞれの島でコロナウイルス感染症前のように、多くの島民の方々がしのいただき、転入教職員や山海留学生の児童・生徒も安心できたと思います。これからは同じ島民として１日も早く、島での生活に慣れて、皆さんと一緒に地域の一員として馴染んでいかれることと思います。どうぞよろしくお願いいたします。そういう思いを込めながら、私は奄美まで向かい、夜の船で鹿児島に向かいました。

４月１７日以降にマスクを外した学校生活が始まります。それぞれの島で工夫して、新しく赴任した教職員や家族、山海留学生の児童・生徒の紹介を行うように、校長先生方にお願いしてあります。マスクを外した“顔”をしっかり覚えていただけると幸いです。今年度も「さわやかトカラ情報」を村内全世帯にお配りします。御一読をお願いしつつ、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度転入教職員宣誓式

４月３日（月）十島村役場大会議室にて転入教職員宣誓式が開催されました。

肥後村長、谷川教育事務所所長、木戸教育長の激励の言葉の後、転入教職員を代表して、平島小・中学校の川崎校長が、力強く赴任の決意を述べられました。

令和５年度の十島村は、児童・生徒数が１１３人、教職員数は７４人となりました。新型コロナ感染防止対策も緩和され、赴任される先生方が３年ぶりに一堂に会しての宣誓式となりました。本年度新規採用の先生方は、最初の初任者研修終了後に宣誓式を実施しました。

一人一人の先生方が、新しい任地に向けて、子どもたちとの出会いを楽しみに期待と気概あふれる宣誓式となりました。

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和５年４月５日　南日本新聞「若い目」掲載）

練習試合できた

中之島中一年　藤谷　萌夏

私たちバドミントン部は、三人という少人数で練習してきた。私が一年生の間に隣の島の諏訪之瀬島中学校と練習試合をすることになっていた。

しかし台風などによってフェリーが三度出航せず、かなわずじまいになった。三月に最後のチャンスとして、日程が決まった。だが、今回も低気圧の影響でフェリーが予定通りに出なかった。私は二年生になったら転校するのでショックだった。

それでも顧問の先生方は諦めずに、どうにかして行く方法を探してくださっていた。そして地域の方が十島村役場に連絡して高速観光船「ななしま２」を使えることになった。

大勢の方たちに協力してもらったおかげで練習試合が実現し、素晴らしい経験を得ることができ。予定が急に変更になったにもかかわらず、歓迎してくださった諏訪之瀬島の方々を含め、多くの方々に支えてもらった。

これからも感謝の心を忘れず、頑張っていきたい。

（令和５年３月１３日　南日本新聞「若い目」掲載）

成長できました

諏訪之瀬島中三年　末吉麟太郎

諏訪之瀬島に来て三年半になります。ここで過ごした日々を忘れることはないでしょう。小学六年生で初めて来た日からシバサシやアラセツなどの行事を体験し、わくわくしました。

最初の一年半は里親さんの家にお世話になりました。一緒に過ごした永さんには迷惑ばかりかけたかもしれません。でも今では一馬さんと並んで島で一番古い友達です。

中学二年生からは、完成した寮に移りました。みんなとご飯を食べながらおなかが痛くなるまで笑ったり、牛の手伝いに行ったり。ふざけて寮監さんに怒られたことも今ではいい思い出です。

寮監さんには感謝しかありません。あいさつの仕方など礼儀作法を学び成長できました。先生方にもお世話になりました。

小中学校の皆さんとは昼休みにサッカーやレクリエーションをしました。いつも明るいみんなと遊べてとても楽しかったです。これからも頑張ってください。

子供のうた

（四／六　南日本新聞掲載）

学校のガジュマル

同じ

私は宝島にいる桜
二月に満開になります
私は宝島にいるセミ
運動会で応えんします
私は学校にいるガジュマル
みんなを見ています
私たちはあなたたちと同じ
宝島の島民です

宝島小５年戸崎碧彩

十　島　村　で　学　ぶ

【 ぼくの大好きな島 】

宝島小学校５年　本名百竹

ぼくは、自然豊かな宝島に住んでいます。海の色はトカラブルーといわれていて、いろんな生き物がいます。山の緑もあざやかで、見わたす景色は手つかずのきちょうな自然ばかりです。

二年生のときに父からのプレゼントでもらったカメラで、ぼくはずっと宝島にいる島の写真をとってきました。その中には、とてもめずらしい鳥もいました。特におどろいたのは、ズグロメゾゴイという鳥です。これまで沖縄県の八重山諸島だけしか生息が確にんされていないきちょうな鳥を、宝島で見ることができました。インターネットのサイトに写真を投稿すると、それがニュースに取り上げられました。これまで島の写真をとり続けて、一番うれしかった出来事でした。

また、島に関する絵画のコンクールに二年連続応ぼして、どちらも受賞することができました。来年度は、島の写真に関するコンクールに応ぼしようと思っています。これからもこの自然豊かな宝島で、ずっと島の写真をとり続けていきたいです。

【口之島小・中学校からのメッセージ】

教諭　野村　久穂

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

口之島小・中学校に赴任して２年が過ぎました。２年前はコロナ感染予防対策により、 赴任して２週間は島民の皆さんに赴任のあいさつもできず、 学校の行事等も縮小され、 交流があまりできませんでした。２年が過ぎて、 島民の皆さん方との交流も増え、 皆さん方の優しさにふれることができました。島には床屋さんはありませんが、 髪の毛を切ってくださる方、 自動車整備工場はありませんが、 タイヤのパンクの修理をしてくださる方、 車のトラブルがあると聞いたら駆けつけてくださる方、 惣菜を持ってきてくださる方、 電気屋さんはありませんが、 クーラーの取り付けを行ってくださる方など、 いつも大変お世話になっています。

赴任して２年間、 ３年生の担任として４名の生徒の進路選択に関わりました。島を離れた４名の中学生たちはそれぞれの将来の目標をもって立派に島立ちをしました。島立ちの日、 船を見送りながら、 令和４年度に実施された村合同修学旅行で訪れた薩摩藩英国留学生記念館のことを思い出しました。英国に旅立った留学生のように、 立派な志をもって島を離れた子どもたちも、 いつの日にか十島に戻って、 島の発展に寄与できる人間になってほしいと思いました。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

赴任前は十島での生活に不安があったかもしれませんが、 島民の皆さんが熱心に学校の教育活動に協力していただいているおかげで、 安心して楽しく暮らすことができていることと思います。島に距離はありますが、 TV 会議等を有効に活用して、 連携して子どもたちのために教育活動に全力を尽くしましょう。